

食品ロスについて

1. 調査の目的

日本国内では、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられたはずの、あるいは食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス（フードロス）」が、国民一人当たり、毎日、おにぎり1～2個分（約1億2,700万人×139g×365日＝646万トン）発生しているといわれています。

福岡県では、この食品ロスの削減のため、事業者や県民の皆様と行政が一体となって県民運動として取り組んでおり、平成28年度から各種広報誌への広告掲載や街頭キャンペーンなどの啓発活動を実施してきました。

そこで、これまで啓発活動を行ってきた食品ロス削減に関する取組の認知度合いを把握させていただくとともに、「食品ロス」を減らす有効な取組について、皆様の御意見をお聞かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思っております。

2. 調査時期

平成30年8月13日～8月26日

3. 回答者構成

モニター数 400人

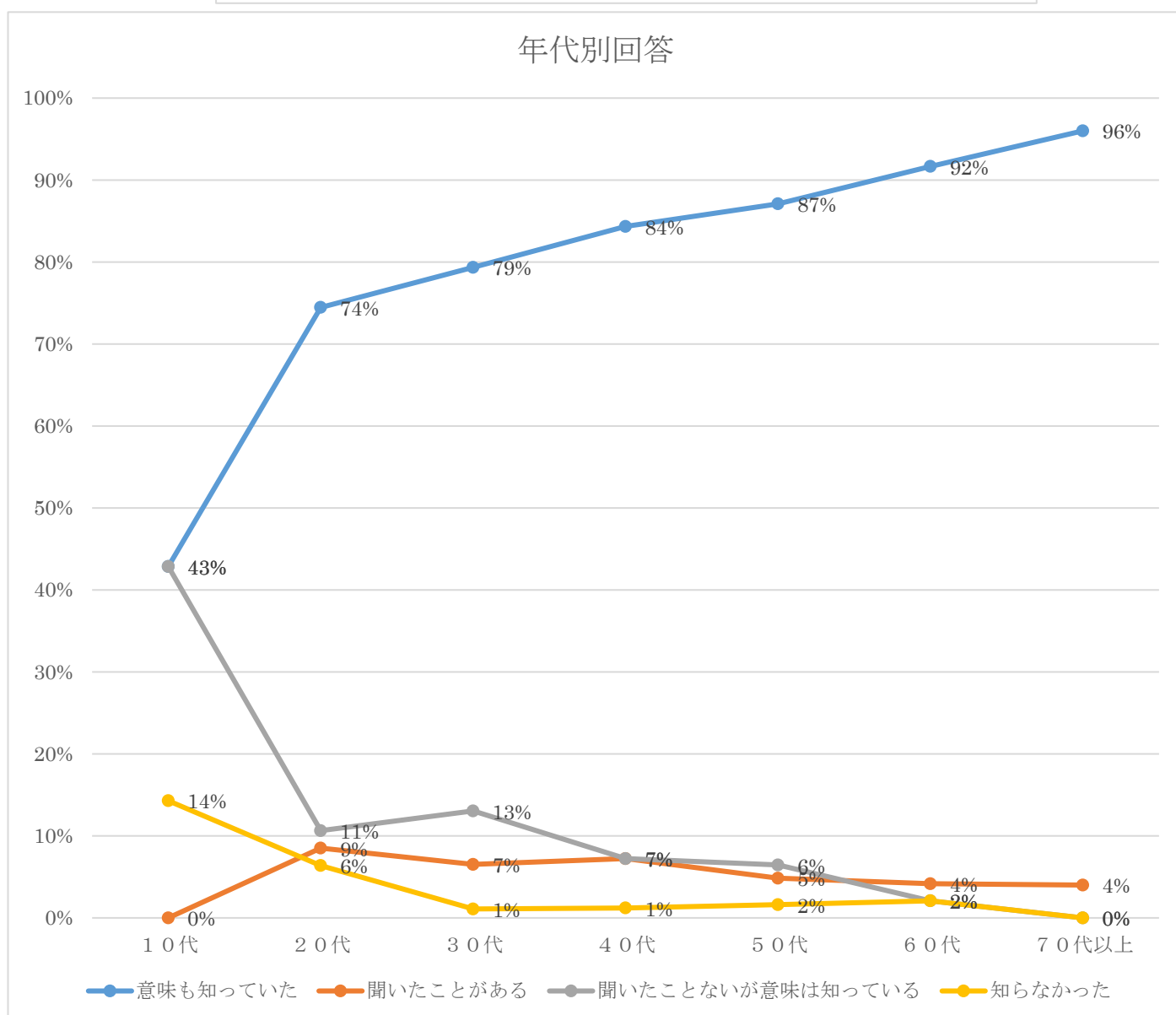
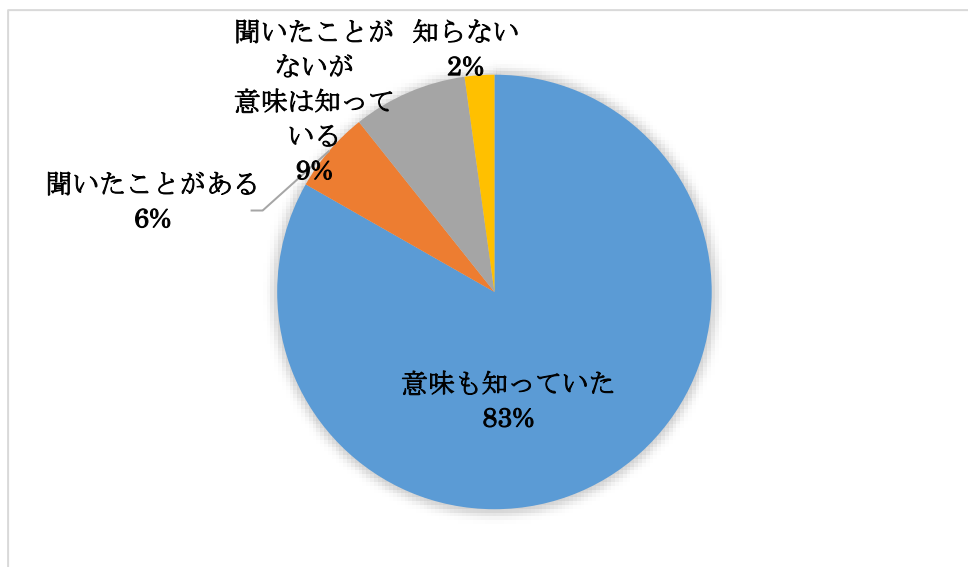
回答数 364人

回収率 91.0%

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	364		84	191	51	38
	構成比		100.0%	23.1%	52.5%	14.0%	10.4%
性別	女性	210	57.7%	50	108	27	25
	男性	154	42.3%	34	83	24	13
年代別	20代以下	54	14.8%	13	30	3	8
	30代	92	25.3%	14	48	17	13
	40代	83	22.8%	20	46	11	6
	50代	62	17.0%	17	31	9	5
	60代	48	13.2%	15	24	6	3
	70代以上	25	6.9%	5	12	5	3

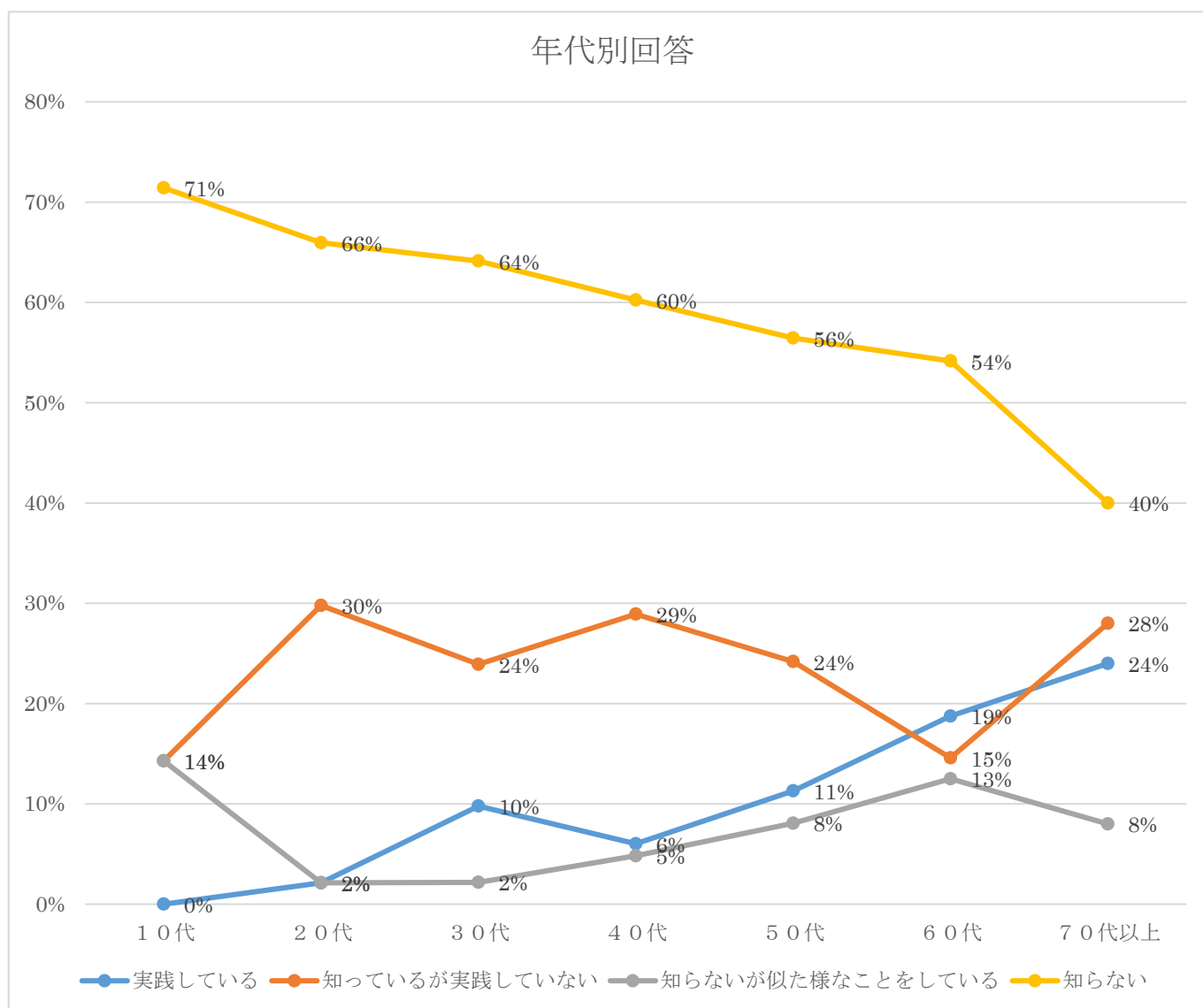
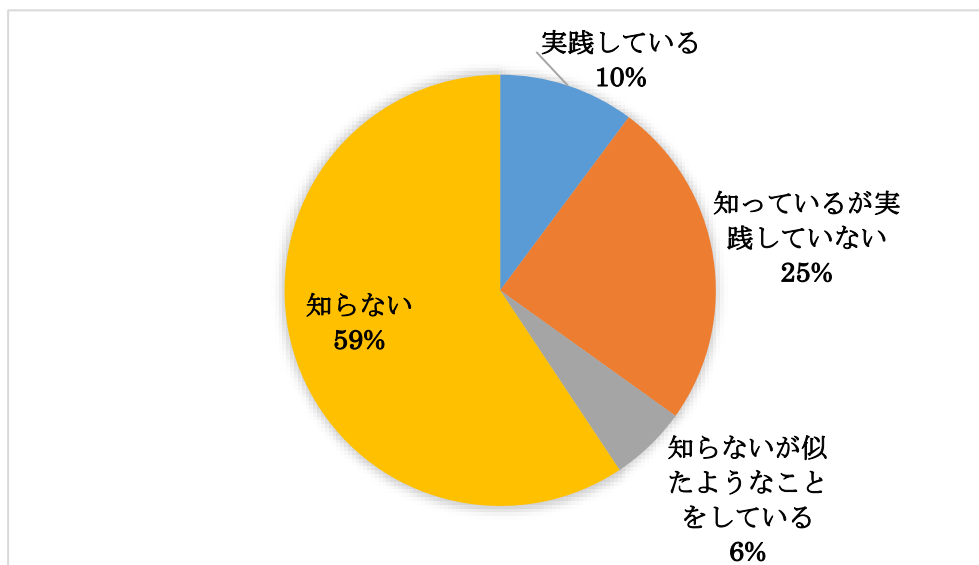
アンケート結果について

問1 「食品ロス（フードロス）」という言葉について聞いたことがありますか。また、その意味を知っていましたか。



○全体的に認知度は高かったが、10代では「食品ロス」という言葉を聞いたことが無い者の割合も高かった。

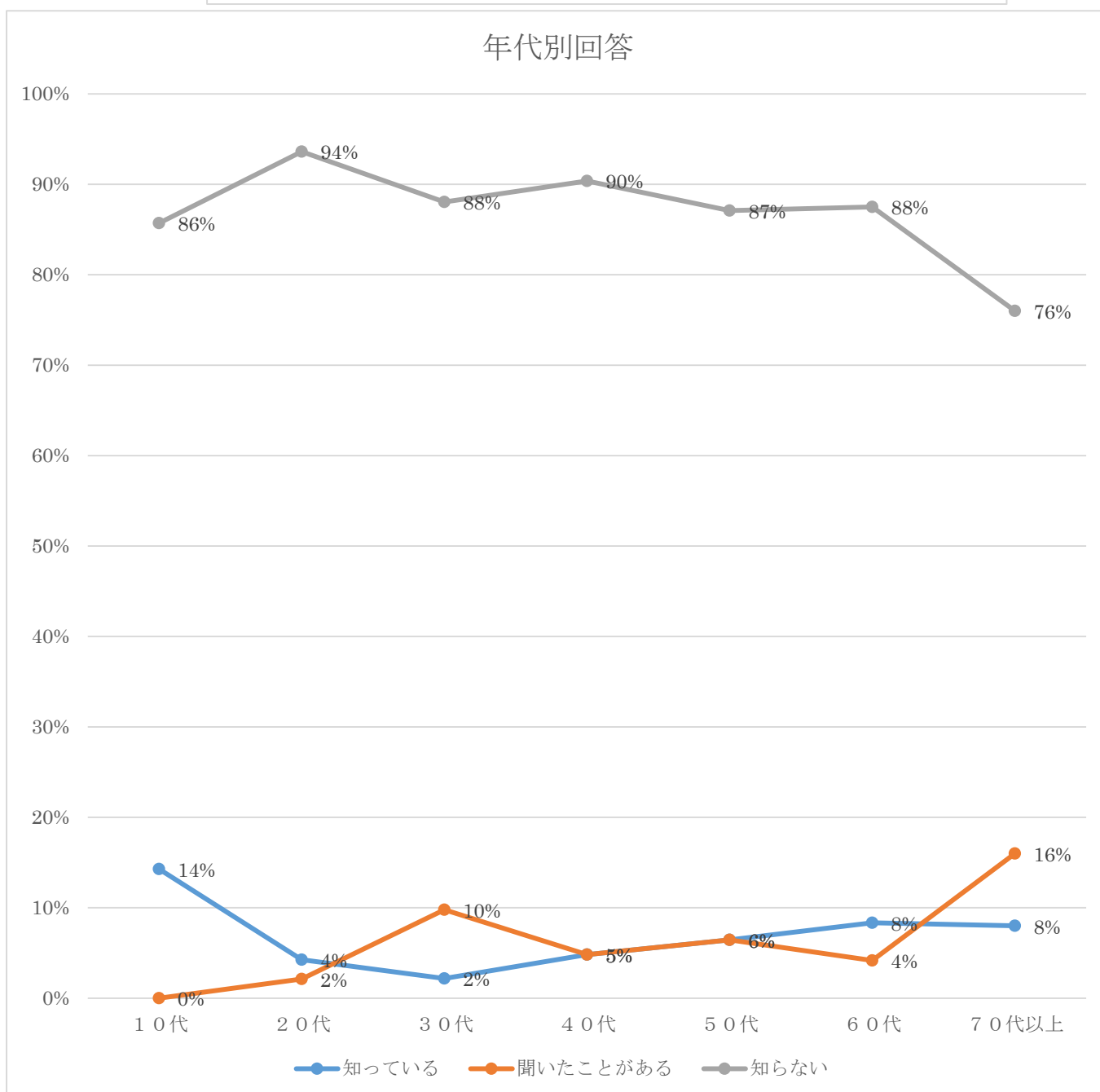
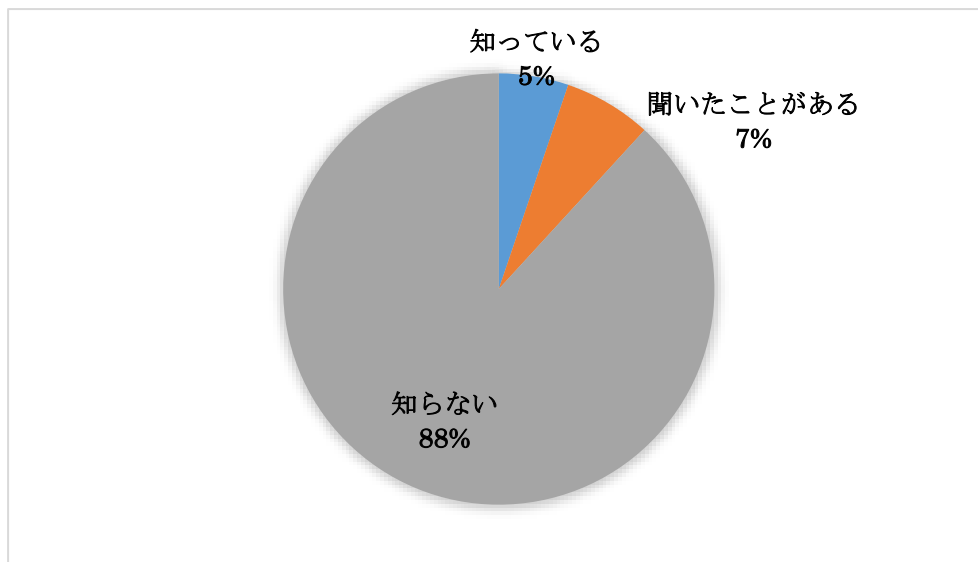
問2 宴会等で、乾杯後30分と終了前10分は席に着いて食事を楽しむことで、食べ残しを減らす、「30・10運動」について知っていますか。また、実践したことはありますか。



○全体では、35%が認知しており、似たようなことをしているという回答も6%あった。

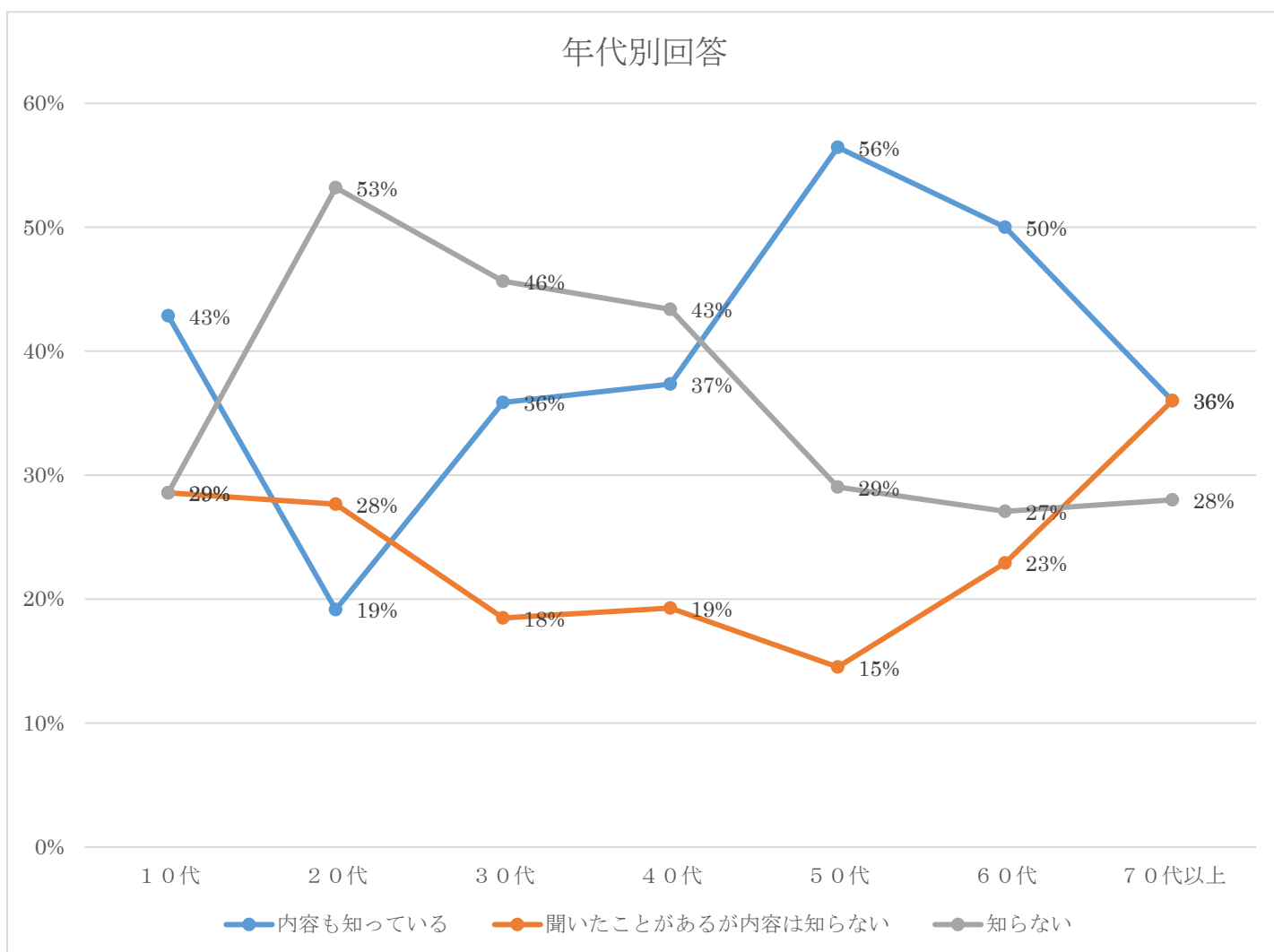
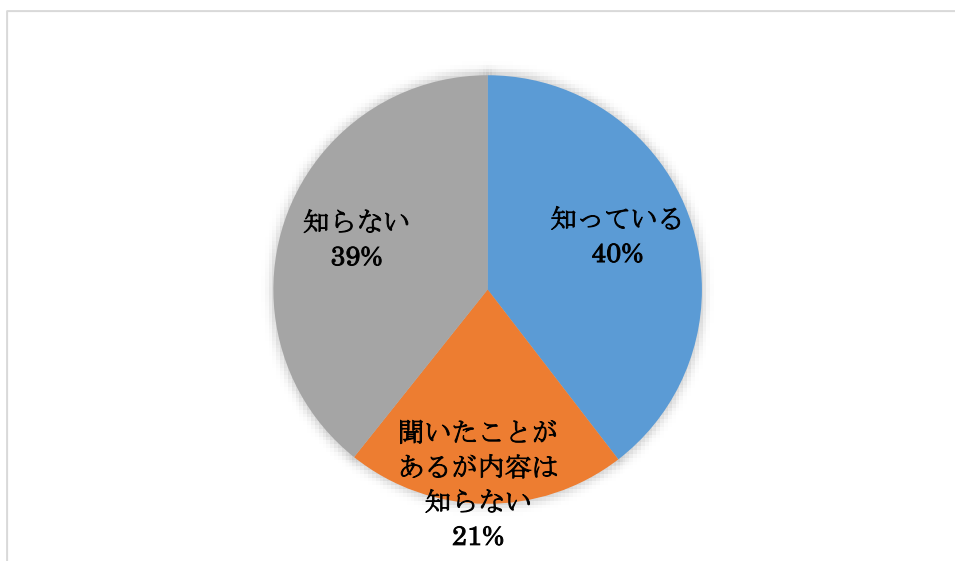
○年代が上がるにつれて、実践する人の割合が上昇する傾向にあった。

問3 「食べもの余らせん隊」について知っていますか。



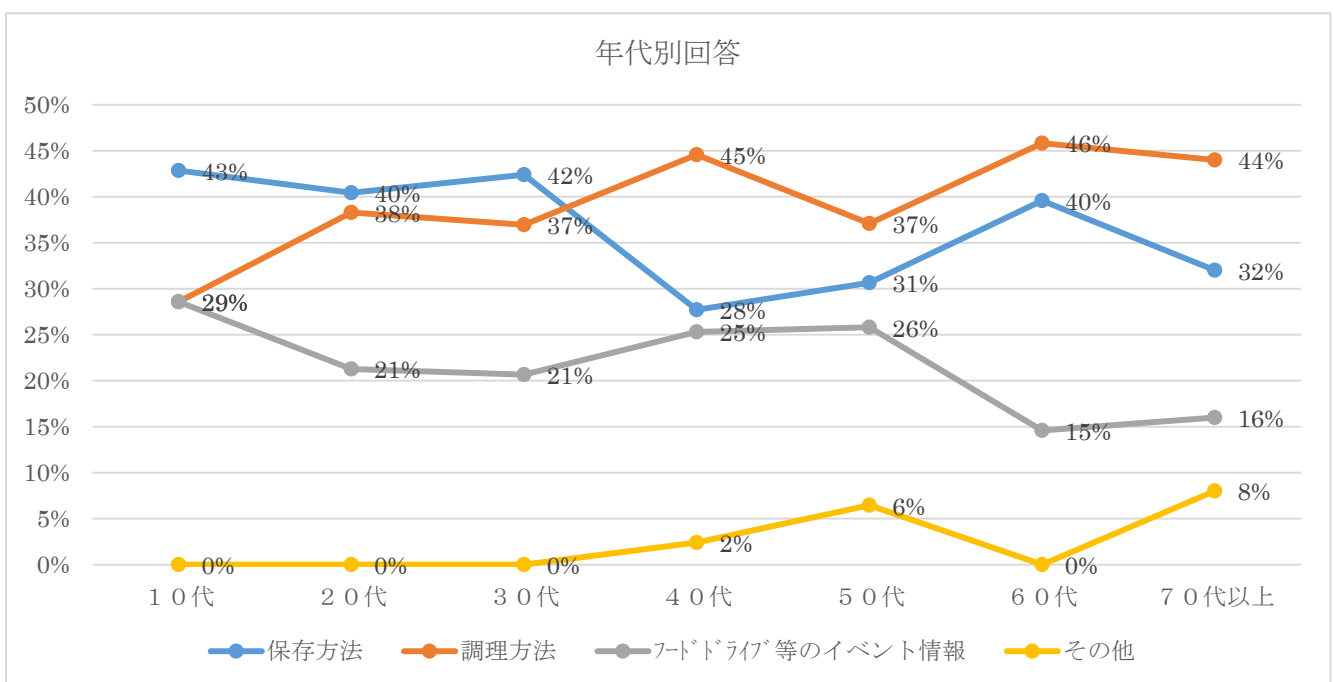
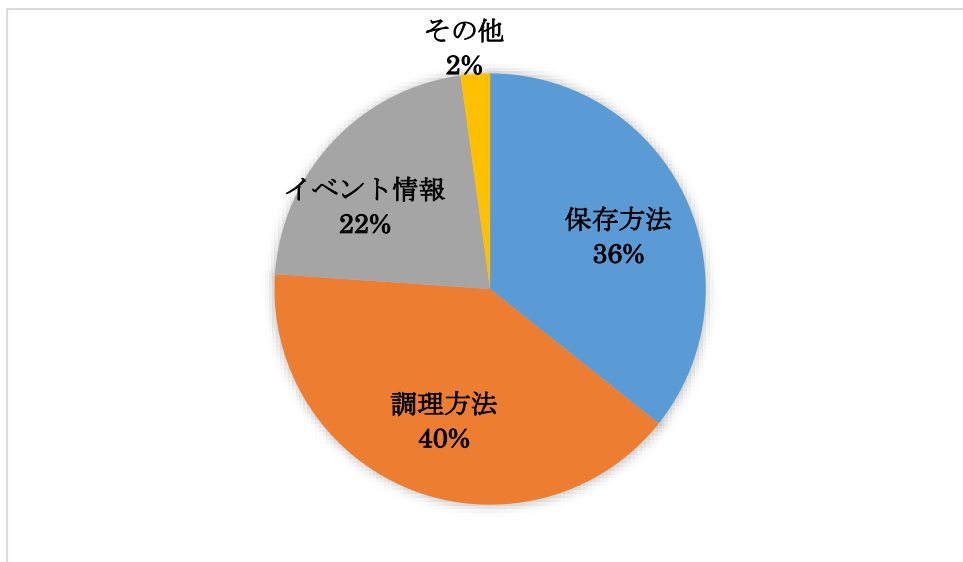
○全年齢層において、まだ認知度が低い状況であった。

問4 食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体や活動である「フードバンク」という言葉について聞いたことがありますか。
また、その内容について知っていましたか。



○全体では、フードバンクについて、言葉も内容も知っていると回答した割合が40%あった。
○年代別では、50代及び60代のフードバンクに対する認知度が過半数以上あった。

問5 家庭での食品ロスを削減するために、どのような情報について知りたいと思いますか。



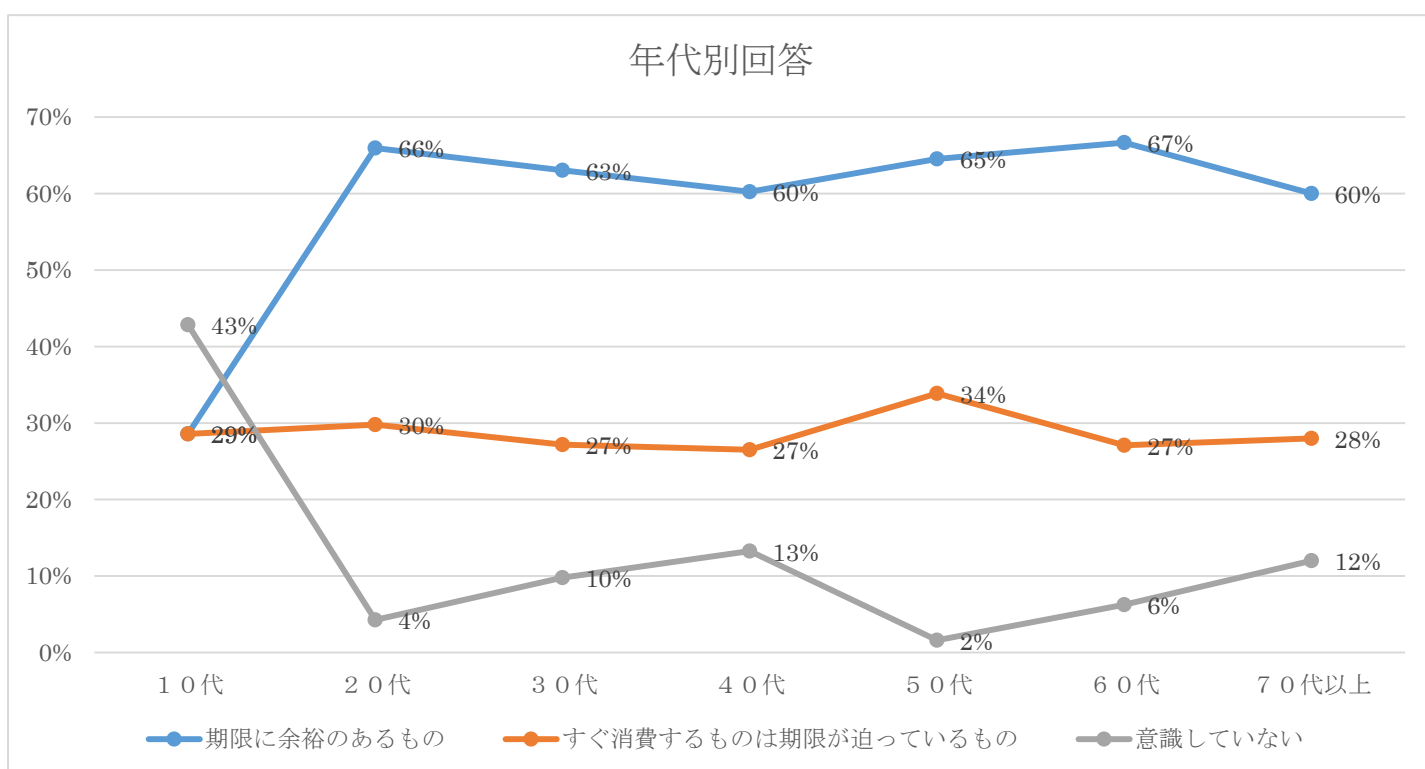
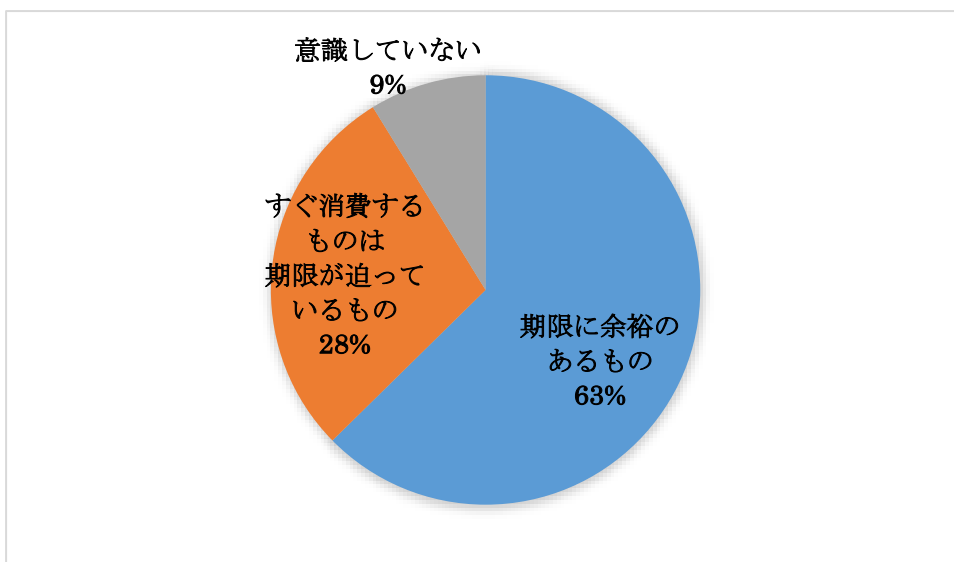
問5-2 問5で「4 その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。(抜粋)

一人暮らし用に小分けして販売する。または量り売り。一人用でも4人家族でも販売サイズ規格は殆ど同じ。量り売りで無駄が省け、その余ったお金で人を雇えば一石二鳥である。
自宅近辺で食品ロスの情報をスマホなどに送るサービスを行って欲しい。また、食品ロスを実際に協力することでポイントを付与して、サービスが受けれるような情報。
冷凍品・冷蔵品・その他の傷みやすい肉・魚・野菜等についてチェック及び重複しない・必要なものだけの購入方法について
コンビニでは賞味期限が近い食品を捨てた方が本部からの支援金がもらえて安売りするより徳だそうです。そういうねじれが無くなればいいです。
家庭では程度の差こそあれいろいろ工夫していると思う。気がかりはスーパーなどでの売れ残り品の方です。
買い過ぎない工夫がとても大切だと思う。

○全体では保存方法や調理方法について知りたいという意見が多かった。

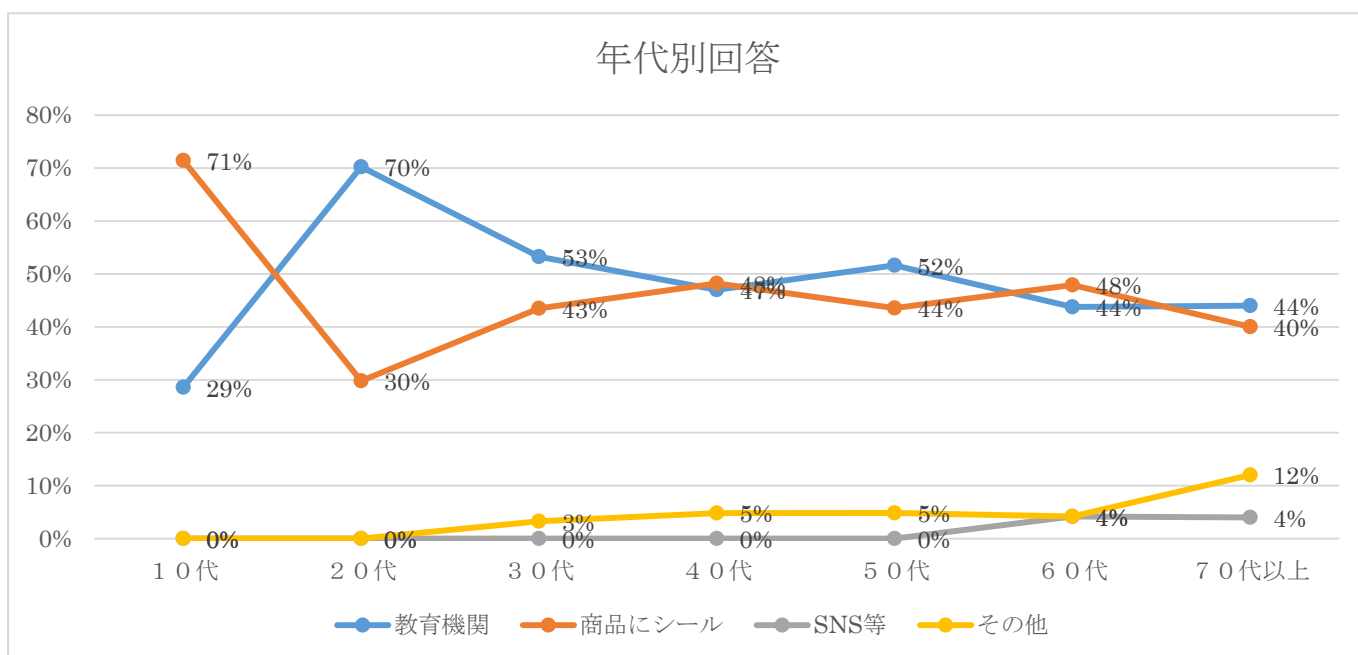
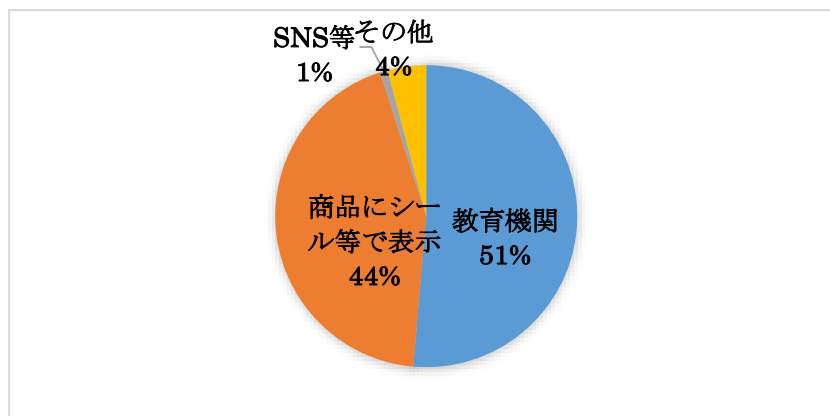
○店頭での売れ残りについて危惧しているような意見もあった。

問6 買い物の際に食品の期限について、どのような意識をもって買うようにしていますか。



○全体的に、買い物の際は、期限内余裕があるものから買う傾向にあることが分かった。

問7 すぐに消費する食品について、期限が迫っているものから買うことにより、食品ロスを削減することができますが、このような取組みを広げるためにどのような啓発が必要だと思いますか。

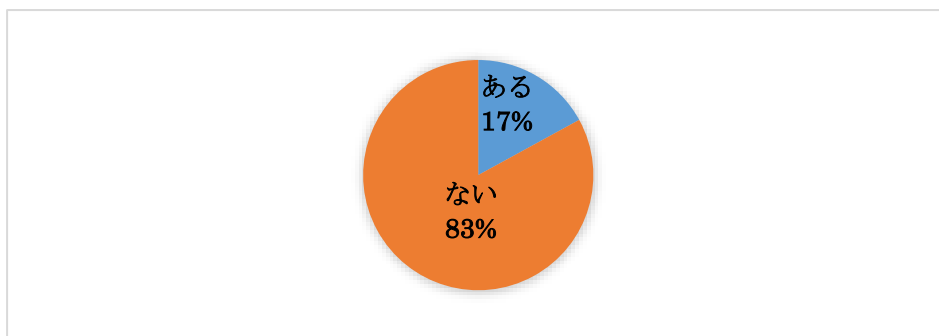


【その他の意見】(抜粋)

- 小、中学校での残菜ゼロ週間では確実に普段より残菜が減る。国民的意識で実施できるような施策を考える。
- 食品にシール等を貼り周知しても、値段を割り引かないと誰も買わないと思う。
- 啓発で改善を図るのは難しいと考える。インセンティブが無い限り自分ほどの様な啓発が行われても期限が長い物を選んで買う。しかし教育によって将来的に自分の不利益になると教育することは意味があると思う。
- 食品販売店における同一商品の段階的な値段設定 (新しいものは高く)
- 店頭で消費期限が近いものはかなりの確率で売れ残ります。廃棄される食品がある一方で孤食で食事をとれない子どもたちもいるので廃棄されそうな食材は子ども食堂などに提供してはどうでしょうか？提供者には県から報奨金などは出せないでしょうか？
- 新聞やTVで取り上げてもらう
- 店舗で期限の迫っている食品を割り引いてセット売りし、セット品を使ったレシピや保存方法を紹介する。
- 食品ロスの為に期限の短いものとするならば、消費者の立場からいけば値段を下げて購買意欲をそそるしかないのではと思います。

など

問8 食品ロスについて、これまでの設問以外に意見がありますか。



【意見】（抜粋）

- 食品ロスはゆゆしき問題だと思いますが、皆の意識は低いと思います。大きなシステム改革は難しいと思いますが、ひとりひとりの意識から食品ロスを減らせると思うのでもう少し周知した方がいいと思います。
- スーパーでは割引品を見る事がよくありますが、コンビニ等でもこのような運動を、行うように啓発すべきだと思います。
- 物が潤沢にありありがたみを感じなくなっている。供給を抑え、大切に消費していく文化の醸成が必要。時代に逆行するかもしれないが、世界の貧困国の現状を知り、物を大切にする心を今一度呼び戻すべきと思う。日本は決して大国ではない、と再認識し、つましく生活する風土を、国や県が推進すべき。
- 家庭での食卓で子どもと一緒に食事をしてもらいたい。そのために3歳までは母親が働かなくても良い世の中にしてもらいたい
- 食品ロスをして資源を枯渇させてしまうような循環があれば、行政が指導する体制を作ってもよいと思う。
- 特に地方での買物環境の充実・維持が必要だと思います。買物をする場が自宅から遠く、公共交通機関がない地域では、近くの限られた商店で限られたものの中から割高で買わざるを得ないと、遠くの商業施設へ買い物に行った際にまとめ買いすることが多くなってしまいます。
- 30・10運動は良い考えだと思うが、宴会料理は室温でなまものが放置されることが多い。食中毒菌は室温に数十分おくと激増するという。適切に管理されたうえでの30・10運動に取り組んでほしい。
- 昔と違って、持ち帰りを許可しているレストランは極めて少ない。保健所との連携が必要ではないか。可能なら持ち帰りしたい。また、昔のテレビ番組だが、NYの有名レストランのごみ箱を夕方回り、いかに食べられるものが捨てられているかを見て回る日帰りツアーが人気であった（まだ食べられるものは持ち帰れる）。極端だがインパクトがある取り組みだった。
- **子供達にも授業の一環として食品ロスについて教育してほしい。**
- コンビニやバイキングで無駄に放棄される食品が多いのでは？
- レストランで食べきれずに持ち帰り対応をお願いしたら、「食品衛生法により、お断りしています。」と言われ、残った食品を廃棄させられた。もっと啓発してほしい。
- コンビニ弁当の廃棄処分が多いので指導して欲しい。
- 公共機関は店舗がロスをどのように処理を改善しているのかの調査を実施する
- 実際に**食品廃棄処理の現場の見学会**をしてほしい。現実を見て知りたい。そうすれば日々の消費行動は変化すると思う。
- 消費期限と賞味期限の違いの広報。宴会時に余分に頼まない幹事と店の摺合せ
- **冷蔵庫の表に賞味期限がいつかを書くカレンダー**を貼り、記入すると良いと思う。冷蔵庫や食品庫の中がわからないでいる。

など